



やあ!

ya!

URL:<http://tia21.or.jp/>

E-mail:tia@tia21.or.jp



国際理解教育実践セミナー「『100人村ワークショップ』を少人数でどうやるの?」

財団法人栃木県国際交流協会と JICA 地球ひろばの主催による国際理解教育実践セミナー「『100人村ワークショップ』を少人数でどうやるの?」が、2010年3月13日(土)、とちぎ国際交流センターで、「桜井・法貴グローバル教育研究所」代表の桜井高志さんを講師に招いて実施され、教員・国際交流団体会員・一般県民など計43名が参加した。

世界の人口を「100人の村」にみたてた本「世界がもし100人の村だったら」のワークショップ版は、疑似体験という参加型の方法で世界の現状を学ぶことができる。今回のセミナーでは、30人～40人の少人数で『100人村ワークショップ』を行う方法や展開方法を学んだ。

2010年6月号

No.111

Summer

◆ トピックス

◆ ようこそとちぎへ

◆ 国際交流団体紹介

◆ インタビュー

日本語ボランティア情報交換会、親子日本語教室

平成22年度栃木県国際交流員(中国)周丹炯さん

清原地区国際交流会

平成22年度AFS留学生

トピックス Topics

「日本語ボランティア情報交換会」

日本語を教えるボランティアの皆さんを対象とした「日本語ボランティア情報交換会」を平成22年3月19日(金)にとちぎ国際交流センターで実施した。講師は日本語ボランティア界で最も注目されている先生のお一人であり、宇都宮大学などで講師も務める金子正子氏。今回で8回目を迎えるこの情報交換会は、日ごろの活動における疑問点などをスッキリ解消したり、日本語の教え方を勉強する集まり。県内各地域から33名のご参加ありがとうございました！



▲楽しい授業の金子先生



▲真剣に課題に取り組む参加者の皆さん

今回のテーマである「授業の準備どうしていますか？」について、グループに分かれて話し合い、アイデアを共有した。参加者の皆さんで多かった意見は、学習者のニーズを把握すること。このことが学習効果にもつながるし、準備のポイントにもなるのだそう。準備で困っていることはズバリ「時間が足りない」。ベテランの金子先生も「そうなのよね～」とこれに共感し、どんなに準備しても不安が残るものという教える側の気持ちを解説。後半は「中級の学習内容」について、外国人学習者が混乱しやすい表現、使役受身、原因・理由を表すいろいろな表現の教え方を学んだ。

「平成21年度 親子日本語教室」

在県外国人の定住化が進む中で、地域の人々とのコミュニケーションや、共に安心して暮らすことができる多文化共生地域作りが必要となっている。そこで、外国人の親子を対象に、日本の生活習慣や遊び等に親しむことで日本語を習得する機会を提供する「親子のための日本語教室」(全2回)を、平成21年度は宇都宮市・栃木市・那須塩原市の3市を会場に実施した。

各回2時間を学習時間と遊び時間に分け、その間には子供たちが喜ぶ「おやつ」の時間を設けた。おやつを食べる前には正しい手洗い・うがいの方法を実践し、インフルエンザ等の予防対策として習慣付けるよう呼びかけた。

参加児童は2歳から10歳と年齢層の幅が広く、全員参加型のカリキュラムを作成するのが困難になり、グループ別でそれぞれ違った内容を実施することもあった。平成22年度も引き続き計画し、全員参加型の、親子で楽しめる文字通りの「親子のための日本語教室」を目標に掲げ、笑顔の絶えない楽しめる場、そして参加者の心に残る時間を一人でも多くの親子と共に過ごしたい。



▲外国人親子が楽しく学んだり遊んだ

ようこそとちぎへ～welcome to Tochigi～

平成22年度栃木県国際交流員(中国) しゅう たんけい 周丹炯さん(25歳) せつこうしゅう かこうし 浙江省嘉興市出身



中国では嘉興市外事弁公室勤務。浙江樹人大学(中国の初の私立大学)を卒業。今年4月から中国の国際交流員として国際課に勤務。主に中国関係の翻訳、通訳、小中学校へ出向いての中国の紹介などの交流活動を行っている。

もともと日本が好きで、高校からのボランティア活動を通じ、日本の福祉が進んでいると感じ、いろいろなことを学ぼうと思うことがあった。日本のアニメも好きで、最初は中国語の字幕で見れていたが、オリジナルで見たくなり、大学では日本語を専攻。特に難しいと感じているのは、日本語の地名や名前の読み方。大学時代には、日本の詩、俳句また日本文化や歴史も学んだという周さんは卒業論文には「日本のことわざ」をテーマに

研究した。日本と中国はよく似ていると言われているが、周さん自身は、文化や社会は違うと感じている。

宇都宮は、周さんの住んでいる中国の浙江省の嘉興市と比べると、大都市の感じがするが、そんなに人混みを感じなくて非常に住みやすいところという。栃木県に初めて来た日、春なのに雪が降っていてびっくりした。また、栃木県人は優しく、親切。高校時代も寮生活を送ってきたので、栃木県での一人暮らしも全然問題なかった。趣味はスポーツ観戦、特にバスケットボールやサッカーを見るのが好き。また、料理も一人で生活する中で好きになっていったと言い、中国料理やタイカレーなども作る。お菓子作りも得意で、パンやケーキ、中国の点心も作る。もし機会があれば、栃木県の福祉施設を見学してみたいとも話す。そして、中国の福祉の話で子どもたちと交流できたらと期待に胸を膨らませている。



このたび、財団法人栃木県国際交流協会理事長に就任いたしました鈴木誠一です。

近年の情報通信技術のめざましい進歩などに伴い、世界の地域と地域、人と人の距離が短くなり、政治、経済、文化など様々な分野でのグローバル化が進んでいます。

そうした中、国内はもとより県内の各地域でも、観光や事業で訪れる外国人の増加に加え、就業や留学などのため長期滞在する外国人も多くなっています。

これからの地域社会をより豊かなものとしていくためには、そこに暮らす私たち一人ひとりが、互いに異文化を理解し、尊重しながら、外国人にとっても暮らしやすく、街づくりなどにも参加・協働できる「多文化共生型」の地域を築いていくことが重要になっています。

今日も、何人もの方が、国際交流や国際協力を目的とした定

期の集まりや講座への参加のために当協会のあるとちぎ国際交流センターに足を運んでくれています。

当協会では、県民の皆様の国際理解促進や外国人のための相談など各種事業を通じて、引き続き、地域の国際化の推進の一端を担って参りたいと考えています。

今後とも、関係機関、団体の皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

平成 22 年度 TIA の主な事業(予定)

- 相談事業 ●携帯メール多言語情報提供 ●留学生支援
- 外国人就職支援セミナー(5月・12月) ●とちぎグローバルセミナー(7月) ●災害通訳ボランティア養成セミナー(8月) ●医療通訳ボランティアセミナー(9月～11月) ●日本語ボランティア情報交換会(9月・3月) ●県民外国語講座(10月) ●とちぎインターナショナルフェスティバル2010(10月) ●フランス・ヴォークリューズ県高校生受入(10月) ●日本語ボランティア初級講座(1月) ●多文化共生啓発セミナー(2月) ●国際理解教育実践セミナー(3月)

国際交流団体紹介

「清原地区国際交流会」

清原地区は宇都宮市の東部に位置し、内陸型としては関東一規模の大きい清原工業団地のあるところ。また、近隣にはホンダを始めとする芳賀工業団地も控えており、二つの大きな工業団地に挟まれた清原地区には数多くの外国籍の方々が在住しています。

そのような中で、身近に住む外国籍の方々に何かお手伝いが出来ないものかと思い、趣旨に賛同して下さる方々と共に、「清原地域住民と地区内に在住する外国籍の方々が、同じ清原の住民として住みやすい地域社会を作るため、地域に根差した国際交流活動をする」ことを目的に、1999年の5月に「清原地区国際交流会(愛称アミーゴ)」を発足しました。目的を達成するために、次のような三本の柱をメインに活動しています。

《支援活動》地区内のゴミステーションに外国語訳のゴミの出し案内の看板を立て、張替えなどの維持管理をしています。また、「五カ国語対応医療機関所在図」や外国人が数多く在住する清原台周辺の「生活便利マップ」を、実際に歩いて調べ作成し発行しました。



▲日本語ワークショップのひとコマ

2つ目は、《日本語会話活動》8回を1クールとして年3回開講しています。日系の方を中心にさまざまな国の方々が日本語でコミュニケーションを取っています。指導者に関しては自ら希望して入会し



▲ブラジルのカフェを提供した文化祭

て下さる方が多く、若い指導者が徐々に増えてきているのが楽しみです。

3つ目は、《国際理解活動》で、会員および地域の方々の国際理解意識を高めるため、「食文化交流」や「ミニ講演会」「日本文化交流」「日本語ワークショップ」などの国際理解講座を開催しています。また、地域の文化祭や盆踊りなどにも参加し、地域との交流も大切にしています。

10年が経過した今、外国籍の方々がさらに安心して私たちと共に地域で生活が出来るよう、秋には地域が主催する防災訓練への外国人居住者の参加も計画しています。今後も、お互いが楽しく生活出来るような地域社会を目指して活動していきたいと思っています。(清原地区国際交流会 会長 阿久津容子)

インタビュー 平成22年度 AFS 留学生

今年度のAFSの留学生が来日しました。来年の2月まで、県内の各高校で日本の高校生活を送る予定です。



▲左から ロドリゴ、ハナ、リン、フェリックス、オリ、レン

①名前(愛称) ②国名 ③高校名 ④生年月日 ⑤部活動 ⑥趣味 ⑦日本に来て驚いたこと

■①ロドリゴ②ブラジル ③栃木湘南高校 ④1994.5.31(16歳)
⑤剣道部 ⑥日本語の勉強 ⑦日本は全てがおもしろい。桜が美しい。ホストファミリーと(障害者の)スペシャルオリンピック活動を手伝いたい。

■①ハナ ②オーストラリア ③宇都宮女子高校④1993.9.25(16歳)
⑤ディベート部、茶道部 ⑥ネットボール ⑦日本の人は礼儀正しく、行儀作法のマナーがいろいろあるので気を使う。日本の高校生は良く勉強するので驚いた。AUSと違って多様な人々が住んでいない。いろいろな場所へ行ったり、たくさんの人と知り合いたい。京都へ修学旅行で行くのを楽しみにしている。餃子、寿司や和菓子が好き。日本料理を習いたい。

■①リン ②マレーシア ③宇都宮北高校 ④1992.5.21(18歳)
⑤国際理解部 ⑥ダンス、歌、読書、文章を書くこと ⑦マレーシアは多様な人種、文化、宗教、言語の国なので日本と大きな違いがあるが、学校や街の様子は同じ様でまるで自分の国にいるように感じる。日本人はとても親切で言葉がわからなくても一生懸命コミュニケーションをとってくれる。友達をたくさん作りたいため日本語を早く習得したい。日本料理を習いたい。

■①フェリックス ②USA ③宇都宮高校 ④1994.9.29(15歳)
⑤サッカー部 ⑥キャンプ、ハイキングなどアウトドアが好き。⑦シアトルの学校には黒人、白人、中国人など人種、民族の違いがあるが、日本は単一民族で多様性がない。栃木は水辺が少ない。学生が良く勉強する。

■①オリ ②アイスランド ③足利南高校 ④1992.5.20(18歳)
⑤テニス部 ⑥ギター演奏 ⑦栃木は美しい。山には木が多い。人口32万で人口密度3人/km²のアイスランドと比べると、宇都宮は大都市。家も人も多く、何でもあるのでいろいろ経験したい。

■①レン ②香港 ③宇都宮中央女子高校 ④1995.2.13(15歳)
⑤ダンス部 ⑥バスケット ⑦香港と比べると日本は静かな国。街や公園を散歩するのが好き。ハイテクでボタンがたくさんついているトイレに驚いた。日本の人は時間に几帳面。

JICA 情報局

アフリカの今、そして明日を考える
企画展『KICK OFF AFRICA!』

初のアフリカ開催となる、第19回南アフリカW杯を記念して、アフリカにエールの気持ちを込めて開催する『KICK OFF AFRICA!』。アフリカの子どもたちも大好きなサッカーをキーワードに、アフリカの今、そして明日を考える企画展示です。

そして、2015年のMDGs(ミレニアム開発目標)達成期限に向け、最終章を迎えつつある今、あらためて、その達成状況と課題を見て、聞いて、体感しながら、“わたしたちにできること”を一緒に考えていきましょう!

【入場料】無料

【場所】JICA 地球ひろば (東京外口日比谷線「広尾駅」下車 徒歩1分)

【期間】6月1日(火)～9月5日(日)

【休館日】月曜日

【開館時間】10:00～20:00

(土・日・祝は18時閉館。6月1日は14時開館。9月5日は12時閉館)

【問合せ先】JICA 地球ひろば

地球案内デスク Tel: 0120-767278



TIA 外国人のためのメンタル相談のご案内

ストレスやつらいことはありませんか? そんなときは、TIA に相談してください。専門の医師と通訳であなたを無料サポートします。

- 相談日時: 毎月第1・3火曜日 15:00～16:00(要予約)
- 場 所: とちぎ国際交流センター
- 言 語: ポルトガル語、スペイン語、英語、中国語、タイ語、韓国語、タガログ語など

TIA ご案内図

(財) 栃木県国際交流協会
(とちぎ国際交流センター)
Tochigi International Association
(Tochigi International Center)

編集・発行 財団法人栃木県国際交流協会
住 所 〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内
T E L 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)
F A X 028-621-0951
業 務 時 間 8:30～17:15
休 館 日 日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日